

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町高等学校

入笠山・20年ぶりの山スキー・・・富士山並みの混雑

飯田高校 杉山昭久先生寄稿

(杉山さんからの依頼で、信高山岳会報告用原稿を一部リライトして紹介します。)

2月信高山岳会の例会を入笠山で行った。雪の入笠山は、信高山岳会20数年前の3月以来である。今回は、竹内(諏訪二葉)、沼田(王滝中)、遠藤(深志)、下島(風越)、そして杉山(飯田)の5名。富士見パノラマスキー場9:30分集合。久しぶりのスキー場周辺は、かなり変わっていた。関東方面からの入場者で、駐車場はものすごい混雑。

ゴンドラで到着した最上部は、スキー客はもちろん、スノーシュー組のツアー客が何人も準備をしている。我々といえば、山スキー(下島・杉山・沼田)、テレマークスキー(竹内)、スノーシュー(遠藤)といった布陣。遠藤さんはゲレ板をも持参。

準備を整え出発。林道はずれ、夏ならば様々な湿原植物が咲くはずの湿地帯に入り込む。そこから又林道に戻り、いよいよ入笠山への登り。1本とり、昔ゲレンデであった広い斜面を快適に登る。夏であれば、ヤナギ蘭の群生が見られたところ。今はどうだろうか。南アルプスの鹿被害のように、全滅してしまっているのかどうか。多くの登山者が、山頂を目指す。本当に人・人・人・・・である。

冬、こんなに多くの登山者を見るのは記憶にないくらいである。まさに、夏の富士山登山を見るような混雑さ。旧スキー場を抜け、樹林帯に入る。多くのトレースがいくつにも伸びている。山スキーでの登山者は数少ない。多くのガイド付きの15名~20名近いグループが、スノーシューでの山頂を目指している。

11:30山頂着。時折晴れ間が出るくらいの天気であるが、風がものすごい。展望は結構



後には大集団が

きく。風の中、頂上での記念写真を撮ったのち、頂上直下の風の当たらない吹きだまりに腰を下ろし昼食。20数年前に来たときは、風もなく、登山者も無く、快晴の雪の山頂から下界の光景を見下ろしながら、新婚竹内さんの奥さん手作りの昼食をいただいたことを想い出す。

昼食後、樹林をくぐりながら、キックターン方式で下る。多くの登山者がいるので、気を遣う。シールをはずし、旧スキー場を快適に滑り降りる。1本とった後、スキーをはずし、ゴンドラ駅まで歩く。休憩後、締まったスキー場内部の雪斜面を快適に滑り降りる。山板での滑降は久しぶりだ。竹内さんは、最近では流行らないテレマークで降りる。標高差約700m。山頂からは約20分程度か。下界では多くのスキーヤーで未だごった返していた。スキー場下の温泉で、身体を癒し、解散。楽しい一日でした。

大町高校春休み合宿IN乗鞍

大町高校山岳部は冬場の活動として、12月耐寒ビバーク(鷹狩山)、1月アイスクライミング(善五郎滝)、1月冬山日帰りトレッキング(戸谷峰)、2月雪洞泊雪上訓練(黒沢

尾根)、3月日帰り山スキー(白馬乗鞍)、3月雪崩学習とイグルー作り(遠見尾根)とタイプの違う山行を積み重ねてレベルアップを図ってきた。その集大成と位置付けて、今年度最終合宿を乗鞍で行った。年度末で都合のつかない生徒も多く、結局、生徒は1年生の3名のみだったが、乗鞍岳肩の小屋(2760m)まで登り、冬の3000m峰を堪能した。

28日、学校を8:45に出発、途中コーチを頼んでいる松田大さんと合流し、スキー場に着いたのが11:00。杉山さんのレポートではないが、今回の我々のパーティも足はそろっておらず、山スキー組が3人、スノーシューにスノーボードが1名、スノーシューのみが1名という取り合わせ。金銭的な面と技術面の両面から、高校生全員に山スキーを強いることもできないが、さりとてやれる環境にある生徒には、この素晴らしい世界を体験させてやりたい。だから僕は、つば足でもボードでも、自分の得意とする(できる)方法で参加すればいいというスタンスで計画を立てさせ、現地でも最も足の遅い生徒に合わせて中身を組み立てる。山スキー道具は、私のお古を貸したり、山岳センターから



左生徒用、右顧問用のイグルー



例によって山岳部歌を歌う

セキュラフィックスを借りたりして用立ててやる。

快晴の土曜日。乗鞍スキー場は駐車場も混んでいた。準備を調べ、早速リフトに乗り込む。11:45ゲレンデトップで山スキーとスノーシューに分かれ歩きはじめる。今日の目的地は位ヶ原下部の森林限界付近。今回テントは持参していないので、一夜を過ごす宿を構築することが今日の一番の目的である。ここはいつ来ても最初の標高差100mあまりの急坂がきつい。しかし、ここさえ登り切れればと考えれば、気は楽だ。ツアーコースとして切り開かれた斜面を時には直登、時にはトラバースしながら、3ピッチ登り、13:50、位ヶ原下部2320m地点を幕営地と定めた。雪洞泊は2月に体験しているので、今回はイグルーをつくることにして、生徒、顧問それぞれが設営した。生徒のイグルーの設営隊長は前回の遠見尾根で体験済みの小谷村出身のY。雪深い小谷生まれ

れの彼は雪の扱いにも長けている。時間はかかったが、丹念にブロックを積み上げて、無事今宵の宿が完成した。夕飯は、食当で男の一人料理を研究中のGが仕切ったらしい。白米に豚と白菜の鍋。1年生だけだが、100%彼らに任せておいても心配ない。小生は松田さんと二人で、大人の会をしている間に夕食となった。

翌日は天候が急変したが、6:45に幕営地を出発。7:10位ヶ原台上に抜け、7:35には大雪溪の駐車場のトイレ脇で一本取った。目標物のない広い斜面がガスってきた。コンパスと地図の出番である。方向を見失わないようコンパスを合わせて、生徒にナビゲーションさせる。ガスで視界がほとんどない中、8:15、寸分の狂いもなく、肩の小屋に到着。肩の小屋がおぼろげに見えてきた時の生徒の感動の声、コンパスの有効性を実感したことだろう。位ヶ原まで下ったところで、「大町高ここにあり」と山岳部歌を歌う。

三人の生徒は、スキーにボード、尻制動と三者三様それぞれが楽しみながら、9:15幕営地に到着撤収。1月に入部し、2度の合宿がいずれも雪中泊、たった一人スノーシューで参加したというSを含む全員が、10:55には元気な足取りで駐車場着。無事合宿終了。